



児童生徒が登校したくなる魅力ある学校づくり

■ 「居心地のよい空間づくり」総合対策による心の居場所づくり

◆ Y中学校では、人間関係がうまく築けず孤立あるいは孤立に近い状況になっている生徒が各学年にいる現状から、孤立しがちな生徒及び周囲の生徒に人間関係形成力が育つよう、学校ぐるみで生徒にとって居心地のよい学校づくりに取り組むことにした。まずは、行動を起こさなければならないと考え、『**居心地のよい空間づくり**』総合対策』と称し、生徒指導部、現職教育部、道徳教育部、特別活動部が意見を出し合っ

て、次のような「居心地のよい空間づくり」の総合対策を立ち上げ、実践している。

- ① 「Y中学校の学び」推進プログラム
 - 授業の質的改善を図るため、次の取組を全教科・全教職員で実施し、毎月1回授業研究会を実施する。
 - 個人の活動の場を設ける。(生徒一人一人の学びの保障、自分の考えをもつ場)
 - 協同的な学びの場を設ける。(4人1組やペアでの話し合い活動や共同作業の場)
 - 自分の考えを表現する場を設ける。(自分の考えを深めたり広げたりする場)
- ② 学級集団づくりの工夫
 - 短学活の活用、生活班の活動支援、グループエンカウターの実施など
- ③ 道徳の時間の指導の充実
 - 35時間の完全実施、指導内容の重点化(集団生活の向上、友情、個性尊重等)

■ 「Z中学校パワーアッププロジェクト」を通じた絆づくり

◆ Z中学校では、生徒が全体的に周りを見ながら行動する傾向が強く、出る釘は打たれるというような雰囲気を感じられた。Q-Uの結果からも、自己存在感・自己有用感を感じていない生徒が多いことが分かった。これを喫緊の課題ととらえ、学校全体を元気にするために、『**Z中学校パワーアッププロジェクト**』を策定し、実践している。まずは、4月に校長が全校生を対象にプレゼンテーションを実施した。

- ◎ Z中学校を更によくするための『4つの秘訣』
 - ① 全校生徒の意識を変える
 - ② Z中学校のシステムを変える
 - ③ 力を合わせ、みんなで取り組む
 - ④ 反省を次の活動に生かす
- ◎ Z中学校を元気にする『3つの提案』
 - ① 「時間割」を変える
 - 昼休みを10分延ばす、25分間のモジュール授業実施(月～木の6校時)、全校総合の実施(金6校時)、放課後の時間を早め部活動の時間を充実させる。
 - ② 「学校行事」を変える
 - 文化祭を2日間実施とし、2日目は整備の充実している文化センターを使用、親子芋煮会の実施、地区の小学校との合同行事・授業参観の実施
 - ③ Z中学校の「元気」を応援する
 - 応援団が「学校の星」として生まれ変わる(リーダーの育成)、学校賞の設定(功労賞、善行賞、皆勤賞)

■ 「絆づくり」と「居場所づくり」の違い

「絆づくり」とは、主体的に取り組む共同的な活動を通して、児童生徒自らが「絆」を感じ取り、紡いでいくことを指しています。「絆づくり」を進めるのは児童生徒自身であり、教職員に求められるのはそのための「場づくり」、いわば黒子の役割と言えます。

「居場所づくり」とは、児童生徒が安心できる、自己存在感や充実感を感じられる場所を提供することを指しています。すなわち、教職員が児童生徒のためにそうした「場づくり」を進めることであり、児童生徒はそれを楽しむ存在と言えます。

(生徒指導リーフLeaf.2「絆づくり」と「居場所づくり」より)